

一般講演 18  
白内障手術 2  
Cataract surgery 2

2024 年 11 月 14 日 (木) 11:00-12:20  
第 14 会場 | ザ・プリンス京都宝ヶ池 1F ロイヤルルーム

座長：鈴木 久晴 (善行すずき眼科)

## 木講演 18-1

### 多施設共同研究による成熟白内障に対する白内障手術の検討

Outcomes of cataract surgery in mature cataracts:  
A multi-center study

森 洋斉<sup>1</sup>、石原 誠人<sup>1</sup>、鳥居 秀成<sup>2</sup>、後藤 聡<sup>3,4</sup>、  
長谷川 優実<sup>5</sup>、神谷 和孝<sup>6</sup>、柴 琢也<sup>7</sup>、小島 隆司<sup>8</sup>、  
永田 万由美<sup>9</sup>、松島 博之<sup>9</sup>、宮田 和典<sup>9</sup>

1:宮田眼科病院、2:慶應大、3:東京医療センター、4:大阪大、5:筑波大、6:北里大、7:六本木柴眼科、8:名古屋アイクリニック、9:獨協医大

**目的】**成熟および非成熟白内障眼で白内障手術のアウトカムを比較する。

**【対象と方法】**対象は国内 4 施設で成熟白内障に水晶体再建術を行った 373 例 373 眼を M 群、非成熟白内障に同手術を行った連続症例 301 例 301 眼を対照群とした。2 群間における術前背景、術中所見、術後成績を後ろ向きに比較した。また、M 群における連続円形前囊切開 (CCC) 不成功のリスク因子を検討した。

**【結果】**平均年齢は M 群 69.2 歳、対照群 73.7 歳で M 群が有意に若く ( $P<0.001$ )、M 群はアトピー、認知症、眼外傷歴の割合が高かった ( $P<0.05$ )。術前生体計測値では M 群の方が角膜乱視は大きく、浅前房で水晶体厚・径・後面曲率半径が大きく、前面曲率半径が小さかった ( $P<0.05$ )。M 群では術中に前囊染色 89.8%、前囊穿刺による減圧 30.3% が併用されており、CCC 成功率 95.7 %、囊内固定率 94.1% で対照群と比べて低かった ( $P<0.001$ )。術後平均矯正視力 (logMAR) は M 群 0.09 ± 0.37、対照群 0.06 ± 0.13、術後 3 ヶ月の平均角膜内皮減少率は M 群 12.0%、対照群 4.7 % で、いずれも群間に有意差を認めた ( $P<0.001$ )。M 群における CCC 不成功のリスク因子は前囊穿刺による減圧が有意であった (オッズ比 4.73、 $P=0.032$ )。

**【結論】**成熟白内障眼は生体計測値が非成熟白内障眼と異なり、手術難易度が高く、角膜内皮減少率は高い傾向にある。前囊穿刺による減圧は、囊に亀裂が生じるリスクとなる可能性があり、慎重に適応を検討するべきである。

**【利益相反公表基準】**該当有

**【IC】**取得有 **【倫理審査】**承認有